



さくらちょうしょう

桜町小だより

「緑と笑顔が輝く桜町小」

児童数 338名 令和5年6月6日(火)



生きる

校長 小川 哲

6月1～3日の大雨で被害にあわれた方たちにお見舞い申し上げます。登下校の見守り、学校公開の変更等にもご理解とご協力いただいたこと、深く感謝申し上げます。

6月の全校朝会で、「生きる」ということについて子供たちに話しました。その中で谷川俊太郎さんがまとめた「生きる」という詩集の中に載っている詩の一つを紹介しました。それが左の詩です。詩を紹介した後



独りじゃなごころじゆ

あつたかさを共有すること

あつたかさを伝えること

あつたかさを感じるこころ

に、自分のほつぺたや前後に並んでいる友達の背中に手を当ててみました。「温かい!」「冷たいよ」などの声が聞こえました。そして、「実際に触れるとその人の温かさを感じられるけど、ずっと触れているわけにはいきません。でも、みんなの周りには友達や家族、先生やいろいろな人たちがいてくれます。みんなは独りではありません。いつまでも、今感じた温かさ、自分の温かさ、他の人の温かさを感じられる、大切にできる人でいてください。」ということをお話

しました。5月に実施した「全校ふれあい遠足」「5年生大貫海浜学園」は、まさに「友達」「仲間」を直接感じた取組でした。学びもたくさんありましたが、「いろいろな学年の友達と思いっきり遊ぶ」「兄弟学級の友達とつないだ手」「上級生の優しさを感じる」「下級生をかわいと思える」「友達と一緒に見た海」「学園で生活しながら聴いた波の音」「貝拾いをしながら感じた潮風と潮の香り」「協力した食事の準備・片付け」「友達と一緒に泊まる」…これから子供たちが生きていくことを支える「よい思い出」や「よい経験」であったと思います。これから行く「6年生修学旅行」もそうあってほしいと思います。失敗やつまずきも経験しながら、行事も含めた日々の教育活動の中で豊かな学びとよい思い出を積み重ねて、これからも子供たちの「生きる力」を育てていきます。

この度のPTA総会（書面開催）を以て、PTA会長が打海可奈子様から高橋えみ様に変わりました。令和2～4年度をお務めくださった打海様は、私の前任の福嶋繁夫校長先生同様、正にコロナ禍での活動ということで、これまでと違う大変さがあったと思います。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。これからできることが増え、変えていくものもあると思います。高橋様、どうぞよろしく願いいたします。執行部、役員をはじめ、会員の皆様には、これまでも子供たちのために十分ご協力いただいているところですが、引き続きよろしく願いいたします。